

- ・誰でも参加しやすい図書館で開催
- ・知識を得たい方、交流を深めたい方のどちらにもおすすめ

【概況】令和7年4月1日時点

人口	48,972人
高齢化率	28.36%
介護認定率	17.6% (1号被保険者)

【立ち上げまで】

平成30年に受けた認知症に関する図書館職員向けの研修をきっかけに、図書館で出来ることを考えた結果、同年6月から「図書館で認知症かふえ」(以下「認知症かふえ」)を始めた。(令和7年6月時点で36回開催)
開始にあたって、事前に認知症サポーター養成講座を図書館職員全員が修了したうえで、『認知症にやさしい図書館ガイドライン』※1に基づいて実施している。

開催概要

【開催日時】偶数月最終水曜日 14:00～15:30

【場所】筑後市立図書館内小スペース

【対象者】

- ・認知症の症状のある本人、その家族、興味がある人等
- ・市内外問わず参加可(事前予約不要)

【当日の流れ】

事前予約不要で、参加者は名前や住所を職員や他の参加者へ伝える必要がない。好きな名前(「認知症かふえ」内で呼ばれたい名前)を名札に書いて参加する。

【参加人数等】

- ・10～15名/回(令和6年度:延べ97名/6回)
- うち、認知症の方本人や男性の方は各1名/回程度

【運営職員】

- ・図書館職員3名
- ・地域包括支援センター保健師1名(図書館から依頼を受け、ストレッチを実施)

当日の流れ

14:00	絵本の読み聞かせ
14:10	認知症に関する書籍の紹介
14:30	ストレッチや筑後市における認知症関連情報発信 (とっとり方式認知症予防プログラム※2)
15:00	意見交換(座談)
15:30	終了

※1 超高齢社会と図書館研究会発行、筑波大学知的コミュニティ基盤研究センター(「[超高齢社会と図書館研究会](#)」、「[認知症にやさしい図書館ガイドライン](#)」第1版を公開 | カレントアウェアネス・ポータル、図書館に関する情報ポータル)

※2 鳥取大学、伯耆町、鳥取県が連携し、鳥取大学医学部浦上克哉教授が中心となって開発した、鳥取県独自の認知症予防プログラム(「[とっとり方式認知症予防プログラム](#)」公開中! / とりネット / 鳥取県公式サイト、鳥取県公式ホームページ)

関係者にいろいろ聞いてみました

図書館

【地域包括支援センター等他課との連携は？】

認知症に関する知識の普及を進めることについて、地域包括支援センターも同じ目的を持っていたので、最初から協力して行った。図書館では、「認知症かふえ」を開催する前から高血圧講座や糖尿病講座等を行っており、図書館と他課との連携は日頃から継続してあったため、連携で困ることはなかった。

【広報の方法は？】

- ・市の広報誌や公式LINE配信、図書館カウンターでのチラシ配布等
- ・新聞に掲載された取材記事を見て参加される方もいる。
- ・参加者の方が「とても楽しかった」と友達を連れてきていただくことが一番多い。

【市外の方も受け入れている理由は？】

図書館としては、広域利用(八女市、広川市等)があることと、どの地域の人でも認知症は課題であるため、市内外は気にせず受け入れている。新聞掲載後は他県からの参加もあった。



地域包括支援センター

【設置状況】直営1か所
地区ステーション3か所(相談のみ受付)

【「認知症かふえ」への関わりは？】

・図書館が単独で開催している「認知症かふえ」へ、依頼を受けて実施している。家族介護教室等として実施しているものではない。

【認知症施策に関する取組は？】

- ・認知症サポーター養成講座やキャラバンメイト連絡会を開催したり、年1回市民公開講座として認知症に関する講演会を行っている。
- ・市内3か所で行われている他の認知症カフェの支援と、チームオレンジとして1か所活動している。

参加者

【参加した感想は？】

- ・以前、訪問系施設に勤務していたので、在宅で介護する家族や本人を支援したい。このかふえに友人を誘って参加の輪を広げている。
- ・無理に話さなくていいから良い。家からはちょっと距離があるけど、図書館は前から知ってるから(来やすい)。

運営について聞いてみました

工夫していること

【プログラムについて】

- ・認知症関連の書籍は、必ず新刊を紹介して、新しい情報を提供するようにしている。
紹介した本は表紙をファイリングして、いつでも予約ができる環境になっている。
- ・ストレッチは毎回「とっとり方式認知症予防プログラム」を実施している。

【図書館での展示について】

- ・認知症について常設展示や、関連書籍の展示を行っている。

開催の効果について

- ・認知症について理解を深めたい、知りたい方が参加し、知識や支援情報を得たことで、早めの受診や地域包括支援センターなどへの相談につながっている。
- ・参加者を中心に認知症の症状について理解が進んでいる。

課題に感じていること

開催場所が図書館の一角で、狭い。場所の確保がこれからの課題になると思っている。保健センターが目の前にあるので、そういった場所や図書館のロビー等での開催を考えている。



絵本の読み聞かせ



保健師による、とっとり方式認知症予防プログラム

今後の活動に向けた思い

図書館の立場から情報提供して、認知症について周知・理解を深める活動を通じて、市民が安心・安全、幸せに暮らせるまちづくりに貢献していきたい。